

魚突きスピアフィッシングのヒヤリハットと安全管理

Diving & Spearfishing JACKKNIFE

魚突きスピアフィッシングの ヒヤリハットと安全管理



里崎亮 著

■著作権について

『魚突きスピアフィッシングのヒヤリハットと安全管理』（以下、当資料と表記）は、著作権法で保護されている著作物です。当資料の使用に際しましては、以下の点にご注意ください。

！ 当資料の著作権はダイビング&スピアフィッシング用品専門店ジャックナイフ、または里崎亮に帰属します。

！ 著作権者の同意を得ずに、当資料の一部または全部を、あらゆるデータ蓄積手段（印刷物・ビデオ・テープレコーダー及び電子メディア・インターネット等）により複製および転載することを禁じます。

！ 著作権法等違反を確認した際は、関係法規に基づいた損害賠償請求等の法的解決手段をとらせていただく場合がございます。

！ 当資料は、発行時点での里崎亮の見解を提供する事を目的としており、その使用また実行のすべては利用者の自己責任で行うものとし、いかなる結果を保証するものではない。

！ 里崎亮は事前許可を得ずに、当資料に含まれる情報について、誤りの訂正、情報の最新化、見解の変更等を行う権利を有する。

！ 当資料に含まれる情報につき、不正確・不適切な情報がある場合も、里崎亮および当社は一切の責任を負わない。

！ 当資料の利用者の本マニュアルを使用したいかなる結果についても、里崎亮および当社はその一切の責任を負わない。

魚突きスピアフィッシングのヒヤリハットと安全管理

Diving & Spearfishing JACKKNIFE

目次

| | |
|--------------------------------|----|
| はじめに..... | 3 |
| 安全対策とは..... | 5 |
| 魚突きにおける危険とその予知..... | 8 |
| 1. 水中拘束..... | 10 |
| 2. 酸素欠乏（ブラックアウト等）..... | 14 |
| 3. 鼓膜穿孔（他、水圧による障害）..... | 19 |
| 4. 減圧症..... | 22 |
| 5. 危険生物との接触（サメ・クラゲ・有毒生物等）..... | 23 |
| 6. 船との衝突..... | 27 |
| 7. 漂流..... | 28 |
| 8. 低体温症（ハイポサーミア）..... | 30 |
| フロートについて..... | 32 |
| フロートの素材..... | 34 |
| フロートラインについて..... | 35 |
| フロート⇄ライン⇄手鉈の接続に使うパーツ..... | 36 |
| フロートまとめ..... | 37 |
| 11. ナイフ..... | 38 |
| 同行者と、その捉え方について..... | 40 |
| 最後に..... | 44 |

魚突きスピアフィッシングのヒヤリハットと安全管理

Diving & Spearfishing JACKKNIFE

はじめに

魚突きと言うのは、実際非常に危険な遊びです。

その危険性は、他のスポーツや趣味と比較しても桁違いに高いと言えます。

では魚突きのどこがどう危険で、その危険をどう捉えどう対策していくのか、それを本資料では皆さんと一緒に考えて行きたいと思います。

まず、魚突きが危険だということを百も承知で、なぜ我々は海に行くのをやめられないのか？

それは言うまでもなく、「好きだから」であるはずですが、

本資料の趣旨というのは非常にシンプルで、

それだけ好きな事なんだから、いつまでもそれを楽しもうじゃないか！

60歳になっても70歳になっても、海に通うおじいちゃんおばあちゃんでしょう！

だからこそ

そのための安全管理は徹底してやろうぜ

というのが趣旨になります。

命より大事なものはありません。言うまでも無く。

生きて還りましょう。

たとえ持ち帰る獲物が、メバル一匹だったとしても。

いや、何も獲れなかったとしても。生きて還ればまた次があるんですから。

魚突きスピアフィッシングのヒヤリハットと安全管理

Diving & Spearfishing JACKKNIFE

安全対策において最も重要な事は、**自分自身の「線引き」を明確にする**、ということです。

人と言うのは、常にリスクと隣り合わせです。

生きている以上はリスクをゼロにすることは不可能です。

なので、安全対策というの、リスクをゼロにする為の施策では決してないのです。

リスクはある。

それを受け入れた上で、あとは「どこまで受け入れるか」のラインを決める。

そしてそのラインを超える危険が絶対起きないように対策をしていく。

これが非常に重要な、安全対策の第一段階になります。

その線引きをせずして、実際にリスクが顕在化（事故が発生）した時、

「こうなるとは思ってなかった・・・」というのが最も愚かな事です。

繰り返しますが、まずは大前提として、生きて還る事です。

特に魚突きでは、自分の死が、すべて自分の自己責任で済むわけではありません。

あなたの家族、恋人、友人。

あなたの訃報を知らされた時、それらの人々がどういう顔をするでしょうか？

それをしっかりと想像した上で、あなた自身の「線引き」をしてもらいたいと思います。

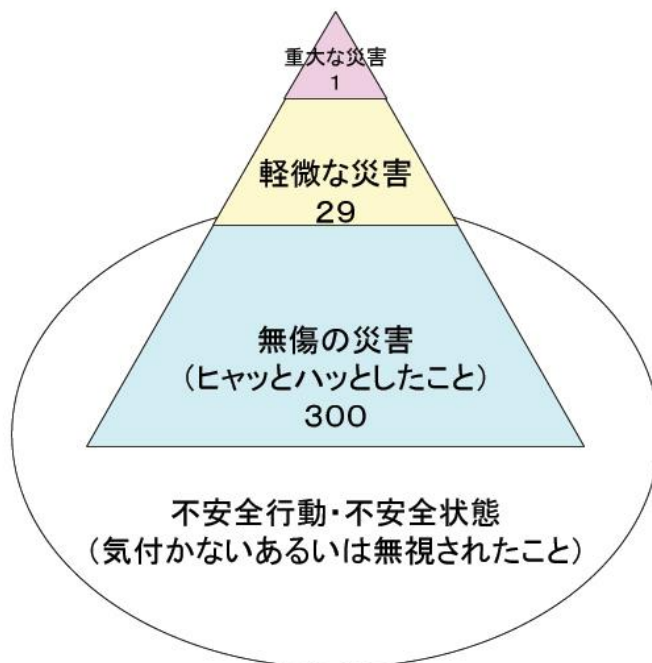
魚突きスピアフィッシングのヒヤリハットと安全管理

Diving & Spearfishing JACKKNIFE

安全対策とは

魚突きにおいては「事故」イコールほぼ「死」です。

よく職場などで危険予知トレーニングとして勉強させられる、「ハインリッヒの法則」というのがあります。下記のピラミッドを見たことがある方も多いのではないのでしょうか。



これは要するに、一つの重大な事故、あるいは数十の軽微な事故の背景には数百の「ヒヤリハット」があり、そのヒヤリハットにしても、無数の不安全状態があって初めて起こるものだ、という事です。

これは非常に重要な理解であり、海における安全管理、そして本資料でもこの法則を大いに活用していきます。しかしこれもまた大事なポイントとして、魚突きの場合は、ヒヤリハットが起こった次の段階でいきなり「死（重大な事故）」がくる事がほとんどであり、というかヒヤリハットが起きた時にはもう遅い・・・という事も往々にしてあります。

魚突きスピアフィッシングのヒヤリハットと安全管理

Diving & Spearfishing JACKKNIFE

つまりが魚突きでは軽微な事故で済むケース自体が少なく、このような綺麗なピラミッドになる事はほとんどないと思われます。

だからこそ、なのですが、魚突きにおいても、このピラミッドの最下層にある「不安全状態・不安全行動」を徹底的に洗い出し、その絶対数を少なくしていく事が求められるのです。

「事故というのは、予測不可能だから事故になるんだ」

・・・と、思われている方も多いですが。

しかし、実際には本当の本当に「予測不可能」な事故と言うのはせいぜい天変地異ぐらいのものであり、その他のほとんどの事故は予測が可能です。この前提のもとに、その事故の背景を徹底的に洗い出して対策をしていく、というのはどんな場合においても非常に重要なのです。

本資料においても、基本的には上記のような流れで、まずは危険予知を行い、その上でそれらの危険に対する対応策を講じていく、というやり方をしていきたいと思ひます。

当店が以前開催したジャックナイフダービーというイベントでは、参加者さんに「安全管理レポート」の提出をお願いしておりました。それはまさに上記の「危険予知」のための事例をより多く集めるため、こういったデータというのは集まれば集まるほど有効なものになります。

私の目線では気付けなかった危険が、他の人から見ると非常に危険なものとして認識されていたり、あるいは逆のパターンもあるかもしれません。どうしても自分一人、もしくは仲間うちだけでは、見過ごしてしまっている危険が数多くあります。

なので、こうやって様々な突き人の目線から危険予知を行い、「不安全状態・不安全行動」を一つ一つ潰していくというのは非常に有意義な事だと考えています。

魚突きスピアフィッシングのヒヤリハットと安全管理

Diving & Spearfishing JACKKNIFE

以下の項では、起こるであろう危険を事例として挙げ、その具体策を考えていくわけですが、ここで紹介する内容においても、ダービー参加者さんが投稿して下さった安全対策、ヒヤリハットの事例をふんだんに盛り込んでご紹介させて頂いております。

この場を借りて、レポート投稿者様方には深く御礼申し上げます。

そしてもう一点重要な点として、本資料はこうして様々な方のお力添えによって完成した物ではありますが、それでも、日本全国それぞれ潜るフィールドも違えば、各個人の体力・スキルも違いますし、使う道具や勝負する水深も違うでしょう。

ハッキリと申し上げて、それらすべてに対応した、完璧な「安全管理・安全対策マニュアル」を作ることなど絶対に不可能です。

最も重要なのは、本資料を「足がかりに」、**あなた自身の安全対策を練っていただく事**であり、本資料の目的もそこにあります。

我々は、我々の好きな事をやるために、過酷な海と言う場所に身を置くのです。

結局、海に出れば誰も助けてはくれませんし、全ての責任は自分自身で持つしかありません。

そして「自己責任」というのは、当然ですが私が決めたことではなく、他の誰が決めたわけでもなく、大自然を相手に遊ばせてもらう以上は問答無用で課せられるルールのようなものです。

少々言い方は悪いですが、かつて我々が学校で「やらされた」避難訓練のような、あのようなスタンスで魚突きに取り組むのは自殺行為と言えます。

何よりも、自分の身を守る為に。

あなたが主体的に安全管理・安全対策に取り組んでいただければ、著者としてこれほど嬉しい事はありません。

魚突きスピアフィッシングのヒヤリハットと安全管理

Diving & Spearfishing JACKKNIFE

魚突きにおける危険とその予知

さて、以下では実際に想定される危険を挙げて行き、その具体策を箇条書き形式で書き出していき、という形で進めていきたいと思います。

魚突きにおける危険とは、大きく分類すれば以下の8つがあります。

1. 水中拘束
2. 酸素欠乏（ブラックアウト等）
3. 鼓膜穿孔（他、水圧による障害含む）
4. 減圧症
5. 危険生物との接触（サメ・クラゲ・有毒生物等）
6. 船との衝突
7. 漂流
8. 低体温症

もちろんこれら以外にも危険はあるでしょうから、あなた自身の安全対策をしていく中では、それら個別の危険要素と言うのも必ず盛り込んで行ってください。

そして、実際に具体的な対策に入る前に、最も重要な対策についてお伝えしておきます。

それは何かと言うと、何か危険を感じた時には、とにかくまず

ウェイトを放棄する ということです。

正しく言うと、**ウェイトベルトのバックルをリリースし、ウェイトを棄てる** です。

魚突きスピアフィッシングのヒヤリハットと安全管理

Diving & Spearfishing JACKKNIFE

魚突きにおける危険と言うのは様々ありますが、まずとにかくウェイトを放棄すれば何とかなるケースと言うのは本当に多いのです。上に挙げた5つの危険に関しても、船との衝突・危険生物との接触を除けば、すべてのケースでこのウェイト放棄が有効になると言っても過言ではありません。

水中で息が持たなくなった時、とっさの行動でウェイトベルトに手が伸びていれば、仮に自分がブラックアウトしたとしても、水深がそう深くなければウェットスーツの浮力で水面に浮かぶことが出来るかもしれません。

※もちろん、そうなったからといって確実に助かるわけではありません。水面でもしうつぶせになったままだったらそのまま溺死です。しかし、同行者がいれば水面に浮かぶあなたを発見して救助してくれる可能性もあるわけですし、というかそれにかけるしかない以上は、ウェイト放棄と言うのはいずれにせよ必須であると言えます。

というわけで、「何かあればまずはウェイト放棄」これは確実に覚えておいてください。

魚突きスピアフィッシングのヒヤリハットと安全管理

Diving & Spearfishing JACKKNIFE

1. 水中拘束

素潜りでは、基本中の基本として「無駄なものは絶対に身に着けない」を徹底して下さい。

そもそもの話として「**絡まるような物を装着しない**」これが大前提です。

あとは、たとえばメグシとメグシのラインは絡まる可能性がある装備ですが、これをウェイトベルトに装着することによって、いざという時はウェイトベルトを外せばこれらも一緒に外れるようにすること、これだけで水中拘束の危険性はぐっと低くなります。

また、特に念入りに絡まり防止策を講じねばならないのが「フロートライン」です。

海中に漂う釣り糸や網などは、基本的にはそれらに近づかなければ良いのですが、フロートラインは手鉈の手当て（ハンドストラップ）に接続してある以上、ラインが常に自身の近くを漂う状態にあるためそうはいきません。

主な対策としては、フロートラインの手元側（手当てに接続する側）3m～5m程度、この部分にチューブを被せてラインの「張り」を持たせる、という対策はかなり効果的です。ラインに張りがあると、自分の体の周りでラインがゴチャゴチャと浮遊することが少なくなり、ラインを直線に近い形のまま後方に伸ばすことができ、足やフィンなどに絡む頻度をぐんと減らせます。

これは要するに「張り」を持たせれば良いので、上記と同様に手元側の3m～5m分だけ、太くてコシと張りのあるラインに変更するなどの対策も有効です。

また、魚を突く際、特に大物に対して手鉈を放つ際に、このフロートラインがもしも体の何処かに絡まっていたりしたら、魚のパワーでそのまま海の底へと引っ張りこまれます。

そしてその危険は決して大物に限ったことではなく、突いた後に根を回る習性のある魚など、いかに小さな魚でも、そうやって根を回るうちにラインを根に絡ませてしまい、水中拘束を起こしてしまう事は十分に考えられます。

水中では魚のサイズ自体を見誤る事も多いですが、魚のパワーに勝てるかどうか以前に、フロートラインをしっかりと冷静にさばいて、その確認をしてから手鉈を放つ、という基本を絶対に怠る事のないようにして下さい。

魚突きスピアフィッシングのヒヤリハットと安全管理

Diving & Spearfishing JACKKNIFE

それで少々話は逸れますが、こういったフロートラインの絡まりだったり、またはフロートそのものの「引き抵抗（引っ張って泳ぐのが重たい）」などの理由により、フロートの使用そのものをやめてしまう方も多いです。

しかし、フロートは安全上非常に重要なものであり、また使い慣れればとても便利で快適なものもあるので、かならず使うようにして頂きたいと思います。

フロートの重要性に関しては、また後述します。

【釣り糸が絡まる】

<危険予知と対策>

- まずは落ち着くこと、パニック=死
- ナイフを使わずとも、ウェイトベルトを外すだけで拘束を脱することが出来ないか？
- ウェイトベルトはクイックリリース出来る物か？
- ナイフは装備しているか？
- ナイフは常に切れる状態か？
- どんな状態においても、さっとナイフを取り出せるか？
- ナイフを落とさない為の対策は万全か？
- そもそも、釣り場の近くで潜っていないか？

魚突きスピアフィッシングのヒヤリハットと安全管理

Diving & Spearfishing JACKKNIFE

【フロートラインが絡まる】

<危険予知と対策>

- まずは落ち着くこと、パニック＝死
- ナイフは装備しているか？
- ナイフは常に切れる状態か？
- どんな状態においても、さっとナイフを取り出せるか？
- ナイフを落とさない為の対策は万全か？
- ウェイトベルトはクイックリリース出来る物か？
- 絡まりやすいフロートラインを使ってないか？
- フロートラインはナイフでスパッと切れるか？
- 水中拘束に至らずとも、足にラインが絡まった経験は無いか？
- 魚に銜を放つ前、ラインが首や足、体に絡まっていないか確認したか？
- 絡まっているのは自分のフロートラインか？それとも他人の？
- 他人のラインが絡まないよう、お互いにある程度の距離を取ること
- 近づく場合は、潮や風の流れを見て、フロートが流される方向をチェックする事

【装備類が海藻・岩などに絡まる】

<危険予知と対策>

- まずは落ち着くこと、パニック＝死
- 基本的にウェイト放棄で外れないような装備は一切装着しない事
- ウェイトベルトはクイックリリース出来る物か？
- 上記を前提に、とりあえずウェイトを外してみる
- ※なのでナイフはウェイトベルトには装着しない
- それでもダメならすぐナイフを抜く
- そもそもナイフは装備しているか？
- ナイフは常に切れる状態か？

魚突きスピアフィッシングのヒヤリハットと安全管理

Diving & Spearfishing JACKKNIFE

- どんな状態においても、さっとナイフを取り出せるか？
- ナイフを落とさない為の対策は万全か？
- これまでに絡んだことのある物は無いか？あるとすれば何？

魚突きスピアフィッシングのヒヤリハットと安全管理

Diving & Spearfishing JACKKNIFE

2. 酸素欠乏（ブラックアウト等）

まず基本的な理解として、我々の「呼吸がしたい」という欲求は、二酸化炭素による作用です。

すなわち「息が苦しくなる」という衝動もまた、二酸化炭素が呼吸中枢を刺激することによって起きる衝動なのです。酸素の欠乏によっても呼吸中枢は刺激されますが、割合で言うと二酸化炭素による刺激の方がはるかに強いです。

要するに、人が「苦しい」と感じるのは「二酸化炭素が増えたから」であり「酸素が足りなくなったから」ではない、という事です。

ん？それって大事なことなの？

と思われたかもしれませんが、案外この理解は重要です。

たとえば、「ハイパーベンチレーション」というフリーダイビングの技法があります。

これは潜水前に呼気を強めた大きな深呼吸を数回行うというもので、これなどはまさに「あらかじめ二酸化炭素の量を少なく（肺から二酸化炭素を追い出す）して、息止めの時間を延ばそう」という発想から生まれた技法です。

ハイパーベンチレーションを「より肺に多くの空気を取り込むための行為」と勘違いされている方も多いですが、ハイパーベンチレーションというのは上述の通り、肺の二酸化炭素量を減らし、単にブラックアウトまでの時間を稼ぐための体を欺く行為でしかありません。

魚突きをされる方に、絶対に守って頂きたいこと。

ハイパーベンチレーションは絶対に行わないで下さい。

魚突きはフリーダイビングとは違います。

チームでお互いをサポートしながら潜るわけでもないですし、なにより魚突きではただ「潜る」だけではなく、潜って魚を突き、そして浮上するという余分なアクションがあるわけです。

魚突きスピアフィッシングのヒヤリハットと安全管理

Diving & Spearfishing JACKKNIFE

「深く潜って浮上する」「だけ」に特化したフリーダイビングというスポーツと魚突きとは、上記の点が決定的に違うのです。ですから、フリーダイビングの技法を安易に魚突きに転用すべきではありません。

ブラックアウトとは？

なぜハイパーベンチレーションをやってはいけないのか、なぜ危険なのか？

その説明をするにあたって、「ブラックアウト」という現象についても簡単に解説をしておきたいと思います。

説明というほど大げさな事ではありませんが、ブラックアウトというのは

「酸素欠乏」による失神

の事を言います。

・・・あれ？と思われた方は鋭いですね。

そう、

「息が苦しい」という衝動は、二酸化炭素が増えることによって引き起こされるんですけどよね？
しかし人間の体がブラックアウトを起こす原因は「酸素の欠乏」なのです。

いくら二酸化炭素に体を慣らし、感覚を誤魔化したとしても、
体には結局の所「酸素」が必要なんだということ。

感覚は誤魔化せても、体は誤魔化せません。

魚突きスピアフィッシングのヒヤリハットと安全管理

Diving & Spearfishing JACKKNIFE

しかしこの感覚は誤魔化せてしまう、というのがクセモノでして、本人は「まだいける」という感覚で行動しますが、実際には体に酸素が足りてないので、本人の感覚とは裏腹にイキナリ失神、という事が起きてしまいます。

その「ズレ」が起きてしまうという事こそが、ハイパーベンチレーションの恐ろしさです。

そしてさらに怖いのが・・・

ハイパーベンチレーションを行って潜っていくと、潜る前に肺の中の二酸化炭素を追い出しているので、「おっ、これはまだまだいけるぞ」ということで普段より長く潜っています。そしてやっと「そろそろ苦しくなってきたかな」という感覚を覚えて水面に向かいますが、実はもうその時には酸素が足りてなかったりする・・・というのは先ほど説明したとおりです。

そしてここからがまた問題で、

浮上するにつれ肺が膨らみ、肺の中の酸素濃度が下がってしまうのです。

浮上前の段階で、ただでさえ酸素が足りてないのに、浮上でさらに酸素が薄くなると・・・

こうなると即、ブラックアウトです。

先ほど「フリーダイビングと魚突きの違い」について触れましたが、魚突きでは「ただ潜る」だけではなく、水中で魚を待ったり突いたりと言った活動が多いため、フリーダイビングよりもさらに多くの安全マージンを取る必要があるのです。

魚突きの事故で、最も多いのがこのブラックアウトです。

決して無理は禁物です。

魚突きスピアフィッシングのヒヤリハットと安全管理

Diving & Spearfishing JACKKNIFE

さて、その対策としても、そして後述の減圧症対策としても非常に重要になってくるのが

インターバル（潜行と潜行の間の時間）を長く取ること

これが何より重要です。

一回潜って浮上したら、少なくとも2分は水面で待つ。理想は3分。

あとは実際に水中でちょっとでも「ヤバい」と思ったら、やっぱりすぐにウェイト放棄です。

【水中で息が持たなくなる】

<危険予知と対策>

- ハイパーベンチレーションは厳禁！
- そもそも、今日の体調はどうか？
- 前日にお酒を飲んだりしてないか？
- 用便は済ませてあるか？
- 寒くないか、水温に合ったウェットを着ているか
- ウェットはキツくないか、サイズはあっているか
- オーバーウェイト（ウェイト量が多すぎる）ではないか？
- 波はどうか？
- 波に酔ってないか、または酔いそうな兆候はないか？
- 海に入る前に準備運動、柔軟体操はやったか？
- 海に入って最初からいきなり限界水深を攻めていないか？
- 今自分がいる水深と、自分の限界水深を知っているか
- 濁りで水深を読み切れていない事はないか？
- 流れがあるのにも関わらず、単純に限界水深だけを目安に潜ったりしてないか？
- いつもと違うポイントなのに、いつもと同じ感覚で潜ったりしてないか？

魚突きスピアフィッシングのヒヤリハットと安全管理

Diving & Spearfishing JACKKNIFE

- もう息の限界なのに、つい大物を追いかけてたりしてないか
- 合同突行などで無理をしてないか？
- 潜り始めて数時間経ってるのにも関わらず、限界水深を攻めたりしてないか？
- インターバルはしっかり取ったか？
- 流れがある+濁りで瀬を見失うから・・・という理由でインターバルが短くなってないか？
- ちょっとでもヤバいと思ったら即ウェイト放棄
- 浅場でウェイト放棄の「練習」を何度も繰り返しやっておくこと
- ウェイト放棄の心理的抵抗になるような装備はウェイトに装着しないこと

【魚に引き込まれる】

<危険予知と対策>

- まず、フロートは必須
- 大物の場合は、魚を突いた瞬間スパッと手鉈を離すべし
- ただし突く直前のフロートラインの確認は絶対に怠るな
- 超ド級のクエなどを狭い穴の中で突く時は、一気に体が穴の中へ持って行かれないよう
すぐ手鉈を離す心構えをしておく
- 中層で魚を突いて、浮上が困難だと思ったら即ウェイト放棄
- 流れ・うねりがある日の穴突き・テトラ付近での魚突きは基本的に控える
- ハイパーベンチレーションは絶対に禁物

魚突きスピアフィッシングのヒヤリハットと安全管理

Diving & Spearfishing JACKKNIFE

3. 鼓膜穿孔（他、水圧による障害）

圧力による影響を一番受けやすいのが耳であり、中でも鼓膜は最も敏感です。

鼓膜と言う薄い膜で仕切られた中耳腔という空間が閉鎖空間であるため、潜るにつれ圧力が鼓膜にモロにかかってきます。

そこで中耳腔と咽頭を繋ぐ耳管に息を送り込み、圧力の均衡を図るのが「耳抜き」です。

耳抜きが上手くできないと、単純に鼓膜が破れます。

そして鼓膜が破れるとどうなるかと言うと、平衡感覚が失われるので最悪溺死してしまいます。

ですので、耳抜きが全くできないという方は、残念ですがダイビング・魚突きは不可能という事になります。

また、耳抜きが出来る方でも、体調によって抜けにくかったり、または片耳だけ調子が悪かったりなどすることは多々ありますので、その時の調子を冷静に判断して、少しでも不調の際は潜らないという決断をする勇気が必要です。

さて、実は水深2～3mほどの水圧でも、鼓膜に穴を開けるほどの力は十分にあります。

素潜りに慣れていくと、どんどん耳抜きの回数が減っていったりするのですが、水深5m程度なら耳抜きをしない、という方もいます。

しかし、それはあくまでも自分のベストな体調においての話であり、風邪気味だったりなど、体調が悪くて耳が抜けにくい時にそのベストな時と同じ感覚で潜ると、案外簡単に鼓膜が破れてしまいます。

決して無理はしないように、こまめに耳抜きをするようにしましょう。

ちなみに、細かいテクニックとしては

ウェットスーツのフードの耳穴が来る部分に小さな穴をあけておくのも一つの手です。

※あくまで自己責任でお願いします

魚突きスピアフィッシングのヒヤリハットと安全管理

Diving & Spearfishing JACKKNIFE

我々の着るウェットスーツはだいたい裏スキンのフード一体型のもので、これだと耳もピッタリと塞がれた状態なので圧力均衡がしづらく、それが小さな穴をあけることによって、耳抜きもしやすく、またリバースブロックも起きにくくなるように私は感じます。ご参考までに。

さらに耳抜きにおけるテクニックをもう一つ紹介すると、

どうしても耳が抜けにくいという方は、「上半身を立てて」耳抜きをしてみてください。

耳抜きというのは肺から耳へと圧を送る行為ですので、逆さまになった状態（通常の潜行姿勢）だと肺よりも下に耳が位置してしまうため、圧を送り込みにくいのです。

あとは耳抜きとは若干違いますが「サイナス・スクイーズ」というものもあります。

中耳腔の圧力を抜くのが耳抜きでしたが、サイナス・スクイーズは「副鼻腔」内の空気の圧力均衡を取ることが出来ずに痛みが出るパターンです。普通は副鼻腔へは空気が通るようになっていますが、風邪や鼻炎などでこの通り道が塞がれるとサイナススクイーズが起きます。

（おでこ・眉間などがキーンと痛くなります。無理をすると鼻血が出ることもあります）

耳抜きのように「鼻抜き」は出来ないのです、これは体調管理に気を付けるほかありません。

これがもしどうしても解消されない場合は、蓄膿症などの可能性もありますので一度医師に相談してみてください。

魚突きスピアフィッシングのヒヤリハットと安全管理

Diving & Spearfishing JACKKNIFE

【鼓膜穿孔】

<危険予知と対策>

- その日の体調に気を付ける
- 風邪をひいてたり、体調が悪いと耳が非常に抜けにくくなる
- 花粉症・アレルギー性鼻炎も同様
- 「痛い」と感じたらもう遅い、早めの耳抜きを心掛ける
- 「自分は10mなら〇回耳抜きをする」などと思いこまない事、回数は体調によって変わる
- あまりに速いスピードで浮上するとリバーブロックになりやすい

魚突きスピアフィッシングのヒヤリハットと安全管理

Diving & Spearfishing JACKKNIFE

4. 減圧症

素潜り（スキンドайビング）では減圧症にならない、と思っている方も多いですが、実は素潜りでも減圧症にかかることがあります。

※これについては日本神経学会様の HP に掲載されている、松尾先生の論文が非常に参考になるかと思えます。当店のブログにて論文へのリンクを掲載（日本神経学会様の承認済み）させて頂いておりますので、ぜひ一度読んでみて下さい。

<http://xn--w8j8id6c8aj6ezgk71a6552ecn6c.com/1652>

ポイントとなるのは潜水と潜水の間の時間、「インターバル」を長く取ること、です。

最低でも 2 分～3 分は間を空けて潜るようにしましょう。

【減圧症】

<危険予知と対策>

- インターバルを最低 2～3 分取ること
- インターバル時間を計れる時計などを身に付けておく
- 体調の悪い日は潜らない
- 荒れている日など、水面で息を整えづらい日はさらに長く休息時間を取ること
- もし重い減圧症にかかった場合、専門の設備を持つ病院でないと診れないためあらかじめどこの病院で診察が可能かを調べておく

魚突きスピアフィッシングのヒヤリハットと安全管理

Diving & Spearfishing JACKKNIFE

5. 危険生物との接触（サメ・クラゲ・有毒生物等）

海には様々な危険生物が生息していますが、我々にとって特に危険で、かつ遭遇の機会も多いのがサメです。

魚突きにおいてのサメによる被害は、現在はまだ日本ではあまり聞かれませんが、魚突き人口の増加に伴って今後確実に増えてくるものと予想されます。

最も良いのはサメの頻出する海域で潜らないことですが、もしそういった海域で潜る場合には、まずは必ずフロートを使う事です。体に魚をぶら下げていては、体ごとガッツリ噛まれてしまう危険性があります。

一方で、人に近い場所に魚がある方がサメが寄ってこないのも、むしろサメ多発地域では逆にメグシを使って魚を腰にぶら下げる、という方もいらっしゃいます。

確かにそれはある面で事実ではありますが、ただし興奮状態にあるサメだとそんな事はお構いなしでガンガン来ますので、くれぐれも注意してください。

そして、場所によっては魚をフロートにぶら下げようもんなら一瞬でサメが寄ってきてズタズタにされてしまうような、そんなサメの多い地域もあり、そういった場所で潜る方は上記のように仕方なしにメグシを使うか、もしくは一撃離脱で魚を抱えたままエキジット、という方法を取っている方もいらっしゃいます。

そういう地域で潜るにあたっては、そういった方法を取らざるを得ないのかもしれませんが、またそういった場所というのは魚影も濃い事から、リスクを冒してでもその海域で潜りたい、という気持ちは理解できなくもありません。

ただ、その場所で「大物をゲットして得られるもの」と、その場所で「サメに襲われて失うもの」、それらを冷静に天秤にかけたとき、はたして自信を持って「私はそれでもこの場所で大物をゲットしたいんだ」と言い切れるでしょうか。

魚突きスピアフィッシングのヒヤリハットと安全管理

Diving & Spearfishing JACKKNIFE

冒頭でも強く申し上げましたが、その辺りのリスク管理を冷静にできるかどうか、安全対策のすべてを決すると行っても過言ではありません。

サメが多い危険な地域で潜ることに、むしろロマンを感じちゃったりしてないでしょうか？

サメに半分齧られた獲物を、自慢気に武勇伝として語っちゃったりしてないでしょうか？

イヤな言い方をしてしまってすみません。

しかし・・・

もしサメに齧られたのが自分の大腿部だとしても、同じように武勇伝にできるでしょうか？

それが単なる怪我で済めば、あるいはそういう話で済ませられるかもしれません。

しかしそれがもし片足切断、または麻痺が残るほどの重症だった場合、それが「自分自身が“ロマン”を求めた結果なんだから仕方ないよな」、と納得できる人は少ないのではないのでしょうか？

私が言いたいのは、安全対策は絶対に「感情」で語るべきではない、ということです。

また、クラゲや毒のある海藻類なども、刺された場合にはショック症状を伴うものもあり、悪くすれば溺死につながる危険もあるため、これらの危険についても想定をしておきましょう。

あとはオコゼ・アイゴ・ガンガゼなど、ヒレ等に強力な毒を持つ魚についても十分注意してください。特にオコゼなどは見つけたら是非突きたい魚ではありますが、ヒレをカットするためのハサミを持っていなかったり、もしくはフロートを持っていない場合、メグシで腰にぶら下げるのは厳禁です。

こういう毒というのは、症状の出方が人によってまちまちですが、たまたま耐性があるって特に症状が出なかったり軽かった人の武勇伝などを真に受けないようにしましょう。たとえ一度目は良くても、二度目はアナフィラキシーショックで死に至る可能性もあるのであります。

魚突きスピアフィッシングのヒヤリハットと安全管理

Diving & Spearfishing JACKKNIFE

【サメに襲われる】

<危険予知と対策>

- フロートを使う
- サメがいる海域でメグシで魚を腰にぶら下げたりは NG
- サメのいる海域・時期・目撃情報のチェックも大事
- そして基本的には「出る場所」「出る時期」には潜らないが吉
- 同様に、出る場所での濁りがひどい日は潜らないこと
- 出る海域での血抜き・腹だしなどは絶対ダメ
- 自分自身も出血している状態で海には入らない（ケガ・生理等）
- 魚を突いた瞬間は最大限警戒すること
- サメは横からやって来るとは限らない、上も下も注意を怠るべからず
- サメを無用に刺激しない
- ヤバい系のサメを見かけたらその日は帰るのがベスト
- そもそも「ヤバいサメ（人を襲う可能性のあるサメ）」の区別がつくか？
- サメの種類においても、事前にある程度は学習しておこう

【クラゲに刺される】

<危険予知と対策>

- フードのついた、全身を覆えるウェットスーツの着用
- ラッシュガードなど体に密着しない衣類は、間にクラゲが入って悲惨な事になるケースも
- フードの無いウェットは頭部や顔をクラゲにヤラれるので NG
- フードがあっても口元は刺されるので注意
- 目に見えづらいクラゲも居るので注意
- クラゲが多数発生している所では、しっかりと水面にも目を向けながら泳ぐ

魚突きスピアフィッシングのヒヤリハットと安全管理

Diving & Spearfishing JACKKNIFE

- 下にばかり気を取られていると、水面のクラゲに顔などを刺されやすい
- 刺されると命の危険があるクラゲ（カツオノエボシ等）には決して近づかない
- クラゲは基本、死んでも毒が消えないので波打ち際の死骸にも注意
- 刺された場所をこすったりするのは厳禁

【有毒生物に刺される】

<危険予知と対策>

- どれが毒のある生物か、判断がつかないとどうしようもないので
有毒種について、ある程度の知識を持っておく
- 刺された場合の対処も様々なので、それについても調べておくことが必須
- その上で、まず怪しい生き物には触らない、近づかない
- たとえ毒が無くても、トゲなどの刺突には十分気を付ける
- 当然、刺されたり被害を受けたらすぐに海から上がって病院へ
- 知識が無い場合、素人の民間療法による治療は絶対に避けること

魚突きスピアフィッシングのヒヤリハットと安全管理

Diving & Spearfishing JACKKNIFE

6. 船との衝突

船からは、潜る我々の姿はまず認識できません。

なので視認性の良いフロートを使用することは必須として、あとはジェットスキーには特に気を付けてください。スピードが速い上に音も水中からは分かりづらく、また船のように航路を通るわけでもないですし、何よりフロートを「あ、何かブイが浮いてるな」ぐらいにしか認識していない為、問答無用でガンガン近づいてきます。

また、ジェットスキーの水流は非常に危険で、タンデムで乗っていた女性が真後ろに転落し、その時にジェット水流が肛門から入って内臓破裂で死亡したケースがいくつもあるぐらいです。

【船と接触する・スクリューに巻き込まれる】

<危険予知と対策>

- フロートは絶対に使う事
- それも目立つ色のフロートを使う、オレンジ、黄色、赤
- 平べったいフロートは目立たない、そういったフロートは必ずフラッグ（旗）を立てること
- ゴミと見紛うようなフロートも全くの無意味、ペットボトルや漁業用ブイ等
- 「船に見つかるはずだから・・・」という理由で小さいフロートを使うのはやっぱり NG
- フロートラインは絶対に体（ウェイトベルト等）には繋がらない、手鉤に繋ぐ
→フロートラインが船のスクリューに巻き込まれた際、自分も船に引き寄せられ非常に危険
- フロートラインは長くし過ぎない、フロートの位置と自分の位置が離れすぎると意味が無い
- フロートラインはスクリューに巻き込まれたときに容易に切れる素材が望ましい
- フロートがあるからと言って必ずしも船から見えている訳ではない
- ジェットスキーが来る場所では絶対に潜らない
- ジェットはスピードが速い上に音が小さいのと、彼らはフロートがあっても気にしない
- 船の往来があまりに多い場所も避ける
- 船は基本的に「よけることは不可能」と思え

魚突きスピアフィッシングのヒヤリハットと安全管理

Diving & Spearfishing JACKKNIFE

7. 漂流

流れにつかまってしまい、沖へ流されて帰れなくなる・・・というのも想定すべき危険です。

特に魚突きでは、流れのある場所にこそ魚がいるケースも多く、激流の中で勝負する事も多々あるかと思います。

地形から海流を読むなどの事前対策も重要ではありますが、フィンなどの装備面も非常に重要です。

「普段はせいぜい5mぐらいしか潜らないから・・・」と、あまりに非力なフィンを履いている状態で、もし流れにつかまると何の抵抗も出来ずに流されるままになってしまいます。

また、逆に「潜行・浮上」のパワーのみ求めすぎて、水面移動が非常に辛いような激硬のフィンもまた、流れに逆らって泳ごうとした時に足がつるなどの危険があります。

自分の体力、潜る海域に合った装備をチョイスしましょう。

あとは実際に流される経験をすると分かりますが、大型のフロートは浮き輪として機能してくれるので本当に安心感があります。それだけではなく、上空からの目印としてもフロートは大切であり、こういった際には本当に命綱ともいえる存在です。

なのでフロートを選ぶにおいては、ある程度大きなものを選ぶ事と、それと肉厚の薄い、パンクの危険があるようなものは避けた方が無難です。こういった非常時にもしパンクでもしたら最悪ですし、普段においても、海上でフロートがパンクしたら獲物は全ロストになってしまいます。

魚突きスピアフィッシングのヒヤリハットと安全管理

Diving & Spearfishing JACKKNIFE

【流れにつかまって沖へ流される】

<危険予知と対策>

- まず、できれば単独行はなるべく避けること
- 時計は必ず身に付けておく（エキジット時間の把握など）
- 流されたら、無駄な装備はとにかく棄てる
- もし流されたら、流れに逆らって泳ぐのではなく「横」へ逃げるように泳ぐ
- 流されたときはフロートを持っているかどうかを生死を分ける
- それはつかまって休めるぐらいの大型のフロートか？
- 上空からでも視認できる大きさ・色のフロートか？
- 容易にパンクする素材のフロートは頼りにならない
- 非力なフィンを使うべからず
- その海域の流れの強さを侮るべからず
- 自分の脚力を過信するべからず
- 必ずしもエントリーポイントに戻る必要はない
- グーグルマップなどで、事前に上陸できるポイントはチェックしておく
- 家族などには必ず「海から上がる予定時間」「潜る場所」を事前に連絡しておくこと
- もしその時間から○時間遅れたら搜索してくれ、等の対応の依頼もしておく

魚突きスピアフィッシングのヒヤリハットと安全管理

Diving & Spearfishing JACKKNIFE

8. 低体温症（ハイポサーミア）

低体温症というのは、カンタンに言えば

「体温の調整機能がぶっ壊れ、体温低下の歯止めが効かなくなっている状態」

です。ちなみに低体温症の結果、死に至ることを「凍死」と言います。

その低体温症の解説にあたっては、まず下記の点が非常に重要な理解となりますので、これをとりあえず頭に入れておいて下さい。

- ✓ 「寒さで震えている状態」というのは、すでに軽度の低体温症にかかっているという事
- ✓ それ以上症状が進み「中度の低体温症」になると、もはや手遅れに近いという事

要するに「震えが来ている状態」というのを軽視してはダメだということです。

もしその震えを無視して中度以上に症状が進むと、今度は逆に震えは止まってしまう、そして自分自身の意識も正常な状態ではなくなり「錯乱」といった症状も出始めるため、ハッキリ言ってそうなるのはほぼ手遅れです。

我々は単独で海に入ることも多いため、助かるかどうかは自分自身の「判断力」が全てです。

しかし低体温症というのは、程度が中度以上に進むと、その判断力そのものが失われてしまいます。

低体温症にかかってしまった場合の対処法というのは非常にデリケートですので、運よく海から上がれたら、まずはとにかく医者に掛かること、そして事前に対処法などをしっかりと学習しておくことが大変重要となります。

魚突きスピアフィッシングのヒヤリハットと安全管理

Diving & Spearfishing JACKKNIFE

- 体を温めることは重要、しかしいくつかの点に気をつけること
- まずアルコールの摂取は禁物（血管が広がるため逆に体が冷える）
- 運動も避ける（体の末端の冷たい血液が循環してしまうことで、体全体が冷えてしまう）
- 眠ってはダメ（眠ると体温が低下する）
- → **脇の下や鼠蹊部（股下）等の太い血管がある辺りを温めるのが一番効果的**

言うまでもないことですが、まずは低体温症に「ならないようにすること」が大前提です。

しっかりと体に合ったウェットスーツを着用することはもちろん、そして、少しでも寒いと思ったらすぐ海から上がる事です。

何度も言いますが、「寒いけど、あともうちょっとならいけるかな」というその自分の感覚、それ自体が狂ってしまうのが低体温症ですから、あまり自分の感覚を当てにしないことです。

特に単独行においては、もし低体温症にかかれば100%死ぬと考えて下さい。

自分の意識はおかしくなる上、加温するすべもなく、体が動かなくなるので陸まで泳ぐことも出来ず、当然、助けてくれる人もいません。

そのように、低体温症というのは非常に恐ろしいものです。

正しい知識を身につけ、くれぐれも無理はしないこと。それを徹底して下さい。

魚突きスピアフィッシングのヒヤリハットと安全管理

Diving & Spearfishing JACKKNIFE

フロートについて

さて、本マニュアルをここまでご覧下さったあなたなら既にご理解頂けていると思いますが、魚突きの安全対策において、フロートというのは非常に重要な役割を果たします。

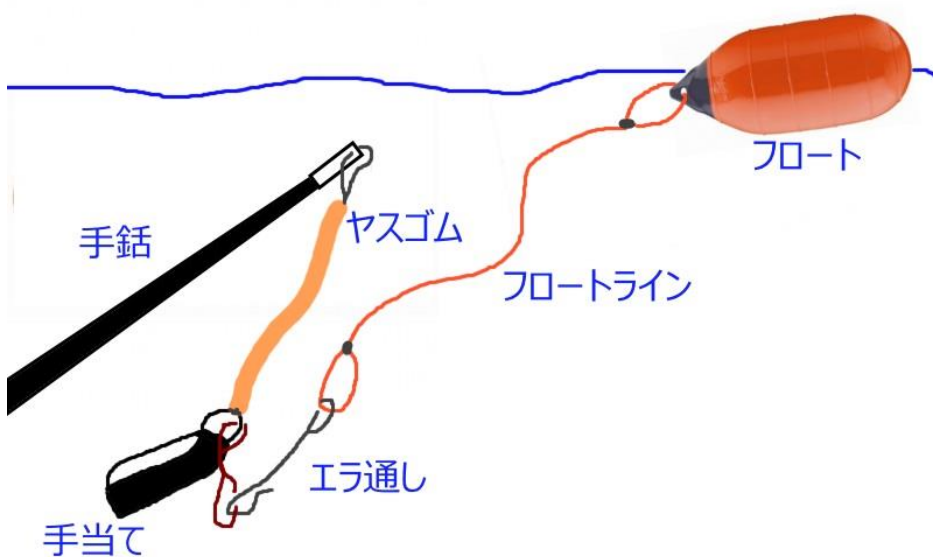
しかし、まだ多くの方がフロートを使用していないのが現状です。

確かに、フロートというのは別に無くても魚突きは出来ますし、他にも潜る地域での問題など、諸事情がある事は理解できなくもないですが、それでもフロートを正しく効果的に使っていれば防げた事故というのも過去何件もあったと私は考えています。

初心者の方においては、そもそもの話として「使い方がよく分からない」「フロートシステムの全貌すらよく分かっていない」という方も多いと思います。

本稿ではそういった方に向けて、基本的なフロートシステムの組み方と、その使い方を解説したいと思います。

まずザックリとした絵ですが、下図が最も基本的なフロートシステムの構造です。



魚突きスピアフィッシングのヒヤリハットと安全管理

Diving & Spearfishing JACKKNIFE

もちろん、この形でないといけない、という事はありません。

フロートを使うことの主目的は

1. 船や同行者からの視認性を上げること
2. 魚のキープ

という2点が主な目的なので、それが叶うものであるならば、どんな形でも良いです。

参考までに紹介しておくとして、下の写真が私が実際に使用しているフロートシステムです。



上の絵と違う点としては、エラ通しを使っていないということ、かわりにストリンガーを使用しているということ。

また、「中間フロート」を使用しているというのも一つポイントです。

※細かい内容についてはブログでご紹介していますので、興味のある方はそちらを御覧ください

このように、フロートシステムはそれぞれで使いやすいようカスタマイズするのが一番ですが、まずは基本的な物の一つ作って、とりあえず使って慣れる所から始めてみてください。

魚突きスピアフィッシングのヒヤリハットと安全管理

Diving & Spearfishing JACKKNIFE

フロートの素材

フロートを自作する場合に使用する「浮き」、浮力体に関しては、視認性さえよければ何でもいいです。赤や黄色、オレンジなど目立つ色の物を使うか、もしくは塗装するなりして使いましょう。

私に関して言えば、上記の赤いフロートはライフセーバー用のブイを流用したもので、他にはボート用の「フェンダー」をフロートに流用しています。

ボートフェンダーというのは、船を係留する際、他のボートや岸壁とぶつかる時の為のクッションなので、非常に肉厚で頑丈ですし、エア充填式なので空気を抜けば小さくすることも出来て実に便利です。

価格も、魚突き専用のもものと比較すればそう高価なものではないので(およそ 3000 円～5000 円)、最初フロートとしては好適な素材かもしれません。



魚突きスピアフィッシングのヒヤリハットと安全管理

Diving & Spearfishing JACKKNIFE

フロートラインについて

そしてフロートラインについては、多くの方が「芝刈り機用のナイロンライン」を利用しており、私もフロートシステムの一部にこのラインを使用しています。

※上の写真に写っているオレンジ色のラインです

ただし、特にこのラインでないといけない、というわけではありません。

この芝刈り機ラインが普及している理由は、まず強靱なのと、海中での視認性が良い事、ハリがあって絡みにくく、また水にも沈みにくいため根に引っかかりづらい事、あとは安価（50mで1500円～2000円程度）で、ホームセンターでも手に入る入手性の良さというのが、この芝刈り機用ラインが普及している理由です。



ラインの長さは、ほぼそのまま潜れる深さのメートル数になりますが、長くても20mぐらいにしておいた方が良いでしょう。

あまりに長いと「フロートの位置」と「実際の自分の位置」が違い過ぎてしまうというのと、船がせっかく海面のフロートを見て回避してくれた時にも、そこからダイバーが離れすぎているせいで逆に船が自分の方へ向かってきてしまう・・・という事もじゅうぶん有りえるからです。

魚突きスピアフィッシングのヒヤリハットと安全管理

Diving & Spearfishing JACKKNIFE

フロート⇔ライン⇔手鉈の接続に使うパーツ

そのフロートとラインの接続方法についてですが、これはフロートとラインを「直」で繋いでしまうと、外したいときに不便ですよね。

なので、取り外しができるように、写真のような「マグロフック」(正式名称ブランチハンガー)を利用する方が多いです。



さて、ちょっとここで一つの疑問。

「なぜフロートラインを“手当て”に装着するのか？」

直接手鉈に装着してはダメなのか？

それを考えるにあたっては、まずは

「手鉈のゴムを引き、そして手鉈を発射するとき」のことを考えてみましょう。

ググッとゴムを引いて手鉈を発射する時、シュパッと手鉈が飛んでいきますが、当然のことながら手鉈を保持していた手、つまり「手当て」部分は動いていません。「移動している」のは手鉈本体だけです。

魚突きスピアフィッシングのヒヤリハットと安全管理

Diving & Spearfishing JACKKNIFE

この時、もしフロートラインを手鋸本体、たとえば後端金具に直付けしてしまっていると、手鋸を発射する際にフロートも同時に引っ張ってしまうことになり、威力がかなり削がれてしまいます。

しかし先程も言ったように、手当て部分は「移動していない」ですから、いくらそこにフロートから引っ張りの力がかかろうと、手鋸発射の威力を削ぐことはありません。

なので手当て部分にフッキングするのです。

フロートまとめ

一気に色々言ってしまったので混乱してしまったかもしれませんが、要するにフロートと手鋸がラインで接続されていればOKなので、あまり難しく考えず、自分のスタイルに合うようなフロートシステムを、まずはとりあえず一度形にしてみてください。

それを実際に使う中で、より良いアイデアも出てくると思います。

.

魚突きスピアフィッシングのヒヤリハットと安全管理

Diving & Spearfishing JACKKNIFE

11. ナイフ

魚突きにおいて、ナイフというのは主に「3つ」の役割があります。

まず、釣り糸やロープ、網などに絡まってしまった際、「水中拘束」からの脱出のため。

そして、突いた魚を「める」ため。

あとはオマケのようなものですが、魚の腹だしの時にもナイフを使います。

さて、最も重要なのは、当然のことながら最初に挙げた「水中拘束からの脱出」という用途です。

しかしここで私が非常に問題だと思っているのが、

ほとんどのダイバー、突き師さんはこの3つの用途全てを一本のナイフでやっちゃっている
という事です。

要するに、魚突き用のちっぽけで小さなナイフで魚のシメもやれば、海から上がった後の腹だしもそのナイフでやる・・・じゃあ、そのナイフはイザって時にロープがスパッと切れますか？
という話なんですよ。

断言しますが、そんなナイフじゃイザという時には100%使い物になりません。

それぞれの用途でナイフを使うなら、別々のナイフを使うべきです。

というより、個人的な意見としては、魚のシメを別にナイフでやる必要は無いと思いますから、専用のメ具を使うなり、または私と同じくメグシでシメるようにすれば良いと思います。

そして腹だしに緊急用のナイフを使うのはもう言語道断ですね。

魚突きスピアフィッシングのヒヤリハットと安全管理

Diving & Spearfishing JACKKNIFE

それこそ魚の腹だしなんざ、車に置いてある果物ナイフなり包丁なり、または料理バサミでも良いわけですから、緊急用の刃物をそういう時に使うというのは安全への意識が低すぎると言えます。

なので、まず第一に**緊急用のナイフは普段は絶対に使わない事**。

そしてメンテナンスを欠かさず、常に切れる状態を保っておく事。

これを意識しておいてください。

あとはナイフ選びのポイントとしては、まずは何と言ってもロック機構がしっかりしているものを選んで下さい。でないといつの間にかロックが外れ、ナイフを海に落とすハメになります。

そしてもう一つのポイントとしては、緊急用ナイフは「普段は使わない」という事が前提になるので、シースから取り出す機会もあまり無いです。そのため、やはり錆びない素材を採用したナイフのほうが扱いや手入れが楽です。

錆びない素材としては、現状「チタン」と「H-1 鋼」があります。

魚突きスピアフィッシングのヒヤリハットと安全管理

Diving & Spearfishing JACKKNIFE

同行者と、その捉え方について

さて、これは道具の話とはちょっと逸れるのですが、魚突きにおいて「**同行者**」の捉え方も、安全管理においては非常に重要ですので、ここで少し触れておきたいと思います。

昨今、インターネットが我々にとって非常に身近な存在となり、現にこの資料もインターネットがなければ世に出ていませんし、中にはスマホで閲覧している方も多々おられることでしょう。

そんな中で、ブログや Facebook、Twitter などのコミュニケーションツールでも、同じ趣味を持つ方同志の交流が盛んに行われ、そこから生まれたコミュニティにおいて「合同」で魚突きをするケースも非常に増えてきています。

同好の士で集まるというのは、私個人の意見としてはとても素晴らしいことだと思っています。

そこで得られる情報や経験、ノウハウは大変貴重ですし、そして安全面においても、仲間や先達に教わるのがたくさんあると思います。

ただ、そういった場合において、一点だけ気をつけなければならないのが、

冒頭でも強く申し上げた「**自己責任**」これの捉え方、です。

言うまでもないことですが、そういった「合同」「合突（合同突行）」において、同行者がいかに経験豊富なベテランであろうとも、スキューバダイビングにおけるガイドやインストラクターでは決してありません。

もちろん、単独行よりかは複数で潜るほうが、安全面においてはいくらかマシではあります。

しかし正直な所、それは本当に「いくらかマシ」というレベルに過ぎません。

魚突きというのは、複数の人数で潜るからといって、事故の確率が劇的に上がる、という事はまずありません。もう少し具体的な言い方をすれば、何か危険なことが起きた時、同行者が助けてくれる確率は限りなくゼロに近いです。

魚突きスピアフィッシングのヒヤリハットと安全管理

Diving & Spearfishing JACKKNIFE

何が言いたいのかと申しますと、

「連れがいるから安心だ」「何かあった時は同行者が助けてくれるだろう」

とは、絶対に思わないで欲しい、ということです。

本当に、そういうちょっとした心の緩みが一番危険なのです。

結論を申し上げれば、同行者がいようがいまいが、

何かあった時には、自分ひとりでそれに対応できる能力・知識・安全対策

を身につけておく、というのは最低限のボーダーラインです。

これは決して、経験の浅い人や初心者を突き放せ、と言っているわけではありません。

ボンベを背負って、ある程度水中での活動に自由が効くスキューバダイビングとは違って、スキンダイビング、スピアフィッシングというのは何から何まで完全に自分の体力だけが頼りです。

どんなベテランでさえも、自分の身を守るのですら精一杯。

そんな中、経験の浅い初心者を全面的にバックアップしながら潜るというのは、お互いを非常に危険な状態に晒してしまうのです。

そして、そのように各人に潜りや魚突きの能力に差がある場合もさることながら、お互いの実力が近い場合も、また別の面に気をつけねばなりません。

やはり、実力が拮抗している物同士が海に入ると、どうしても競い合ってしまうでしょう。

海という、人間の力ではどうにもならない場所で「競争」をしてしまうというのは、これもまた非常に危険な行為です。

何より、私が言っておいて何ですが、そもそもの話として「実力が拮抗している」というのも幻想に過ぎず、たまたまいい魚が獲れているだけの人が、同行者に負けまいとして体力以上の無茶をするのは自殺行為としか言いようがありません。

魚突きスピアフィッシングのヒヤリハットと安全管理

Diving & Spearfishing JACKKNIFE

最近多い、いわゆる「合同」で一番危険なのはこのケースではないでしょうか。

「あいつには負けまい」「ちょっと良いところを見せよう」というスケベ心は絶対に持たないようにして下さい。そんなチンケなもののために命をかけていいはずがありません。

同行者を連れて行く側も、お願いをして連れて行ってもらう側も、そのあたりのスタンスのすり合わせ、そして安全管理体制の共有は、海に入る前に必ず念入りに行うようにして下さい。

魚突きスピアフィッシングのヒヤリハットと安全管理

Diving & Spearfishing JACKKNIFE

さて、解説は以上になります。

あとは実際に使っていく中で、それぞれのアイテムをご自身の好みに合うようにカスタマイズして
いって下さい。

道具は「シンプルが一番」です。

特に我々は素潜りですから、海に持って入れる道具も限られています。

また、水中拘束の項でも言いましたが、無駄な道具を持つのは危険でもあります。

そして一通りの道具を揃えたら、何と言ってもそれを「使い慣れる」事が非常に重要です。

どんなに良い道具があっても、使いこなせなければ無用の長物ですからね。

そしてもちろん、道具があるからと言って安心・慢心してはダメです。

どんなに良い道具を持っていようが、海をナメたらその先にあるのは死です。

くれぐれも安全、海況、そして体調には気を付けて、海を楽しんで頂ければ幸いです。

魚突きスピアフィッシングのヒヤリハットと安全管理

Diving & Spearfishing JACKKNIFE

最後に

いやー、自分でもこれだけ長い読み物になるとは思ってもみませんでした、本当に、最後まで読んでくださってどうもありがとうございました。

あとは本資料中では触れませんが、

「魚突きを長く続けていく」ためにもう一つ非常に重要な事、それは**マナー**です。

この素晴らしい海に囲まれた日本という国で、魚突きという最高に面白い遊びをこれからも続けていけるかどうか、というのは、本当に我々の行動一つにかかっています。

あえてここでは条例の話には触れません。

また、私がここで偉そうなことを言うつもりもありません。

綺麗事に思えるかもしれませんが、**私達がまず何よりも自分の身をしっかりと守り、事故を起こさないように潜ること**、そしてその海への敬意を忘れず、誰のものでもない海で「遊ばせてもらっている」という意識を忘れなければ、少なくとも状況は悪い方へは行かないと信じています。

昨今では魚突きの人口が非常に増えています。

今のところ、初心者の方が事故に合われたという報告はそれほど多くはありませんが、この人口の増え方から考えて、今後そういった事故やトラブルが増えてくるのは間違い無いと思います。

魚突きスピアフィッシングのヒヤリハットと安全管理

Diving & Spearfishing JACKKNIFE

先ほどの「同行者について」の項でも触れましたが、最近では魚突きブログ等で知り合った仲間と一緒に海に行くケースも非常に増えています。

それは、ひとつの「時代の流れ」です。

一部では、そうやって魚突きがどんどんオープンなものになっていくのを、快く思わない人もいます。しかし、私はそういった流れを止めようとは思っていません・・・というより何より、それを止めるほどの力をまず持っていませんが（笑）

魚突きを楽しみたい、という人がいて、そしてインターネットというものがある以上、その楽しみを共有したい、というのはごく自然な流れです。

個人的な意見としては、その流れにブレーキをかけるのではなく、もちろん無闇にあおるのでもなく、インターネットという強力なツールを有効に使い、こうして安全面などの情報もしっかりと共有していくことができれば、と思っています。

その一つの現れが、今回の安全管理のための資料になります。

もちろん、この資料はまだ完全ではありませんが、ぜひ皆様のお力も借りながら、そういった魚突き初心者の方にとって良い手引となるように、私も努力を続けていきたいと思えます。

ぜひともご意見、ご感想をお寄せ頂けましたら幸いです。

最後まで読んでいただき、本当にどうもありがとうございました。

Diving & Spearfishing JACKKNIFE

代表 里崎亮